

平成27年度資源評価報告書(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成27年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 キダイ

学名 *Dentex hypselosomus*

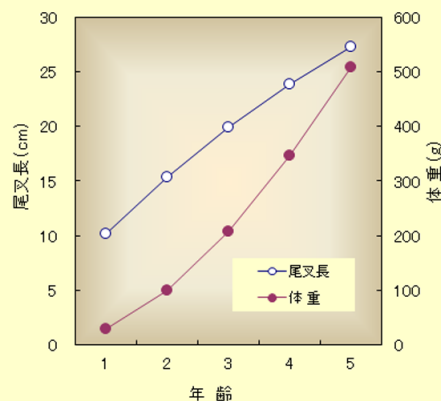
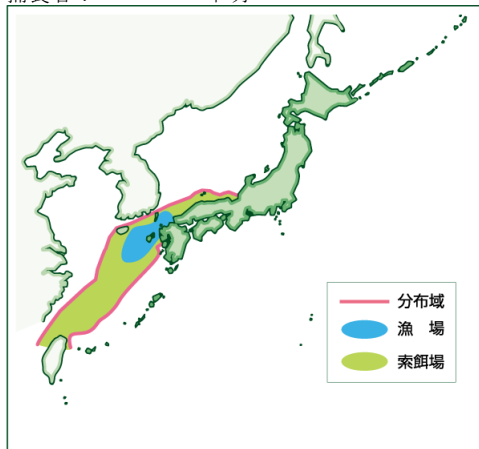
系群名 日本海・東シナ海系群

担当水研 西海区水産研究所



生物学的特性

寿命： 不明（過去に行った年齢査定では最高8歳）
成熟開始年齢： 2歳（50%）、3歳（100%）
産卵期・産卵場： 年2回（春季と秋季）、五島西沖～済州島、沖縄北西の大陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海
索餌期・索餌場： 本州中部以南・東シナ海・台湾・海南島等の暖水域、夏季は浅みに、冬季は深みという深淺移動を行い、大規模な回遊はない
食性： 主に甲殻類
捕食者： 不明

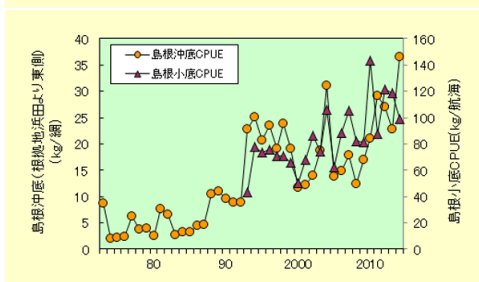
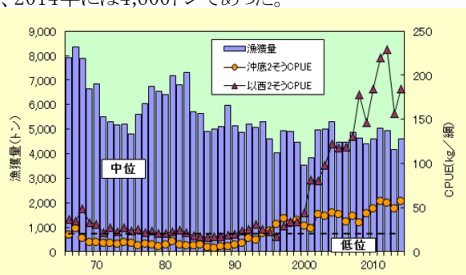
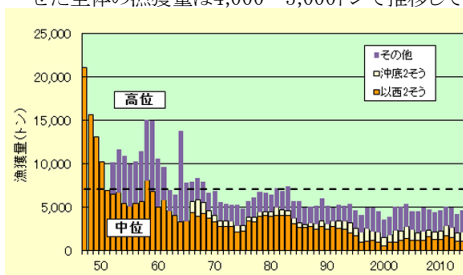


漁業の特徴

漁業の主体は沖合底びき網漁業(沖底)、以西底びき網漁業(以西)、小型底びき網(小底)、延縄、釣りである。県別では島根県・山口県・長崎県の漁獲量が多い。かつては日本海西部～東シナ海南部に広く漁場が形成されたが、現在は日本海西部～九州西岸が中心である。中国・韓国漁船によっても漁獲されているとみられるが、キダイとしての漁獲量は不明である。

漁獲の動向

戦後の沖合漁業の再開後、1947年に以西による漁獲量は2万トンを超えたが、その後急速に減少した。近年では、2そうびき沖底および2そうびき以西による漁獲量はそれぞれ1,000トン前後で安定している。その他の漁業種類を合わせた全体の漁獲量は4,000～5,000トンで推移しており、2014年には4,600トンであった。



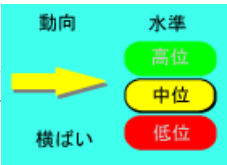
資源評価法

系群の分布域を広く漁場としていた1947年以降の漁獲量、他の漁業と比較し漁場が広く、長期間の漁獲量と努力量が得られている沖底2そうのCPUE、および各漁業の現在の漁場でのCPUEを基に資源状態を判断した。なお、中国・韓国の漁獲量は不明のため考慮しなかった。

資源状態

1947年以降の漁獲量の上位3分の1に相当する7,000トンを経済水準の高位と中位の境界とし、沖底2そうCPUEの1965年以降の平均値に近い20kg/100mを中位と低位の境界とした。2014年の漁獲量は4,600トン、沖底CPUEは57kg/100mなので、資源水準は中位と判断した。また現在の漁場におけるCPUEはいずれも1990年代以降は増加傾向であり、特に、日本海西部を漁場を含む沖底2そう、島根沖底2そう、島根小底の1994年以降のCPUEは、それ以前と

比較し高い水準を維持している。最近5年間では、これらのCPUEはいずれも横ばいとなっていることから、動向は横ばいと判断した。



管理方策

現在の限られた漁場内では、漁場内での分布量動向に従って漁獲することが妥当であると考えられる。このことから、現在の漁場内の以西2そう、沖底2そう、島根小底CPUEの相乗平均を資源量指標値として、2016年のABCを算出した。

管理基準	Limit/Target	F値	漁獲割合(%)	2016年ABC(トン)
1.0-C2014-0.93	Limit	-	-	4,300
	Target	-	-	3,400

- Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量である
- Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、より安定的な資源の維持が期待される漁獲量である
- ABC算定規則2-1)により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ 、 $ABC_{target} = ABC_{limit} \cdot \alpha$ で計算した
- δ_1 には1.0(日本漁船による漁獲は本系群の資源全体に大きな影響を与えていないと考えられるため)、 α には標準値0.8を用いた
- γ_1 (0.93)は、 $\gamma_1 = 1 + k(b/l)$ で計算した。kは標準値の1.0とし、bとlは資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間(2012～2014年))である

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばい
- 漁獲量は4,000～5,000トンで推移しており、2014年は4,600トンであった
- 1990年代以降では現在の漁場内での資源量指標値は増加傾向

管理方策のまとめ

- 利用している漁場が限られているため、現在の漁場内での分布量動向に従って漁獲することが妥当である
- 東シナ海における資源管理には中・韓の協力が必要

執筆者: 福若雅章・川内陽平・依田真里

資源評価は毎年更新されます。